

VOICE

（株）オージ 「子ランプ」 お客様の要望に応え、時代とともに変遷

（株）オージは、バス用方向幕巻取機の開発を皮切りにバス関連機器メーカーとして発展してきた。

特に「子ランプ」と呼ばれる降車ボタンは、現在でも高いシェアを誇る製品だ。

1960年当時、運転席の後方に行燈型の停車表示はあるものの、バスが混んでいると乗客には見え難く、停車を知らせるのが困難であった。先代社長は「ボタン自体を発光させれば乗客にわかりやすくなるのでは」と考え、押しボタンに電球を入れ、手元でバスが止まることを明確に知らせる製品「WS-20」を開発した。

バス会社からは乗客にはっきり停車を知らせることで安心してバスを利用してもらえるようになったと好評で、その後もロングセールスを記録した。

1983年に開発された「WS-210」はバス車内をすっきり見せるようにと、取付けビスを表面に出さない形状にし、押しボタンのスペースに広告・安全標語などが入るようにし、活用用途を広げた。

1987年に開発した「WS-220」は、プレートで設置されていた「お降りの方はこのボタンを押してください」という文字をスイッチ部分に入れることによりプレート設置を不要にし、車内をスッキリさせた。また、光源部分にLED（発光ダイオード）を採用して光源部分を長持ちさせることに成功した。

最近では深夜高速バスの座席に設



創業当時の製造現場

榎本 徹 (1980年入社)
代表取締役

降車合図装置、方向幕巻取機の設計に従事し、時代・技術の変化とともにLEDを使用した機器への開発をしてきた。使いやすい、親しまれやすい製品を提供するべく努力をしている。



現在のバスで多く使用されている手すりや優先席用のWS-262S



SOS ボタンと運転席用の液晶画面 (非常連絡システム)



微弱無線を利用し送受信機間の配線をなくした

置する、「SOS ボタン」を開発。ボタンを押すとLEDが点灯し、運転席にある液晶画面に座席番号が表示され、ブザーが鳴る仕組みだ。このブザーは、深夜バスの走行中、乗客が体調不良を感じたりした場合を想定して作られた。すでに岡山県にあるバス運行会社が自社の深夜高速バスに設置している。

押しボタンを「降りることを知らせる」から「安全・安心を知らせる」へ、機能を進化させている。

□（株）オージ（代表取締役 榎本 徹）

路線バスの安全な運行、観光バスの快適な旅行を約束するハイクオリティ、ハイグレード、ハイテクノロジーな機器を製造することで社会に貢献している。

本社

〒115-0043 東京都北区神谷 1-1-1
TEL: 03-3912-3111 FAX: 03-3912-7834
http://www.kk-oji.co.jp/

私たち資材部会は、部会会員を専門分野ごとにグループ分けを行い、3分科会13グループからなる「ビジネスネットワーク」を設置しております。この「ビジネスネットワーク」は、会員のより強い連携と結束を実現し、架装メーカーに対するより積極的な協力体制が展開されています。

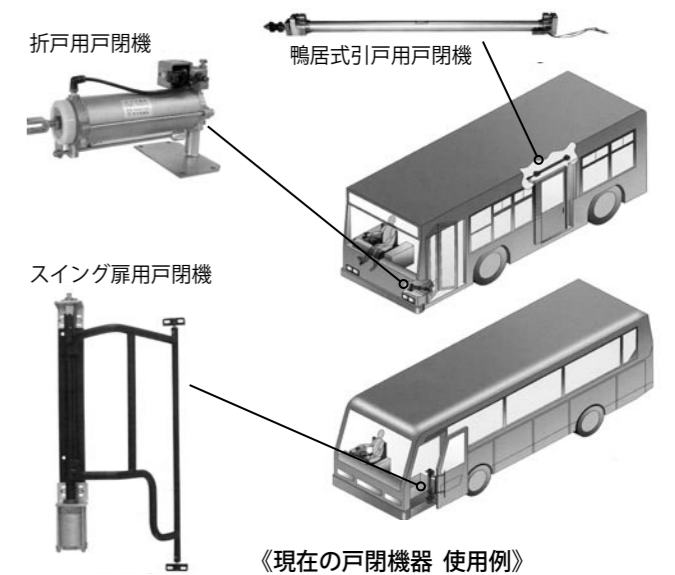
「VOICE」では、シリーズで部会会員会社の製品および技術が開発されるまでの経緯を紹介していきます。

泰平電機（株） 「バス用戸閉機器」 トップメーカーが産み育てた技術

泰平電機（株）は昭和23年の設立当初、鉄道車両用電気機器メーカーであったが、時代の変遷とともに戸閉機器専門メーカーへと事業転換する。以来60年にわたり、戸閉機器専門のトップメーカーとしてその名を知られている。

1960年代、バスは車掌の乗務する「ツーマンバス」が主流であり、バスのドアも手動式であったが、時代が進むにつれ、扉の自動化が普及していった。泰平電機（株）では路面電車の自動扉の実績を活かし、バス用引戸戸閉機械の開発に取り組んだ。路面電車よりもドアが小さいバスに積むため、戸閉機用のシリンダーを小さく軽くする必要があった。

当時検査課にいた戎谷氏は「電車に積むものより小さく軽いんですが、動かすドアの重さは一緒です。小さくなった分どうやってパワーを出すかで試行錯誤を繰り返しました」と振り返る。ワンマンバスの普及に合わせて折戸の自動化も進み、小型折戸用戸閉機械の開発は更に進んだ。現在ではドアの種類に合わせて、15～20種類近いシリンダーが開発されている。そのどれもがコンパクト、軽量化され、取付けも簡単なものになった。



《現在の戸閉機器 使用例》

観光バスなどに多く見られるスイング扉用戸閉機は、25年ほど前、ヨーロッパのバスを見本にして開発された。「シリンダーが回転しながら扉を開閉する、横置きだったシリンダーを縦置きにする。そのユニークな発想は、戸閉機に長年取組み、お客様の要望に応えてきた技術があったからこそ、生まれたもの」と君塚氏は語る。コンパクトでハイパワーなスイング扉はお客様から高いニーズを得ている。

現在、全国で使われる大・中型バス用ドアの実に約9割が泰平電機（株）製であるという。

バス扉の戸閉装置のみならず、鉄道車両の扉でも多く用いられ、その技術力は扉開閉用安全装置、バリアフリー関連機器などにも反映されている。



1950～60年当時のバスと戸閉機器



引戸用戸閉機

折戸用戸閉機

戎谷 秀男 (1962年入社・右)
東京営業部 担当部長

入社以来46年、主にバス用戸閉機械とその関連機器の販売、メンテナンスに従事し常に自動扉の安全対策に心がけている。

君塚 三英 (1970年入社・左)
営業統括部長

入社後3年間製造部に在籍、以降バス用戸閉装置関連の営業に従事。自動ドアの安全性と人に優しいドアシステムを心がけている。



□泰平電機（株）（取締役社長 菅原 健吉）

常に人と安全性・技術革新をテーマに掲げ、品質第一をモットーにお客様にご満足いただくため創意と工夫を重ね、これからの見つめる「提案する集団」を目指している。

本社・工場

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 1-8-4
TEL: 03-3966-7411 (代) FAX: 03-3966-7416
http://www.taihei-electric.co.jp/